

「初代在ブラジル日本国公使館が設置された都市」

ペトロポリス市による姉妹都市提携の希望

2019年2月

在リオデジャネイロ総領事館

今般、ブラジル・リオデジャネイロ州にあるペトロポリス市から、日本の都市と姉妹都市提携を希望する旨の要望があったところ、ペトロポリス市の概要以下の通り。

1. 市の概要

●所在地：リオデジャネイロ州ペトロポリス市（州都であるリオデジャネイロ市から北に68キロのところに位置）



- 面積：79万5798平方キロメートル
- 人口：29万8235人（歴史的に、ドイツ移民、イタリア移民が多い）
- 日本との時差：（ブラジル冬時間）12時間、（夏時間）11時間
- ウェブサイト：<http://www.petropolis.rj.gov.br/turispetro/index>

2. 市の特徴

●歴史

ペトロポリス市は、ブラジル王室とゆかりの深い都市である。18世紀に当時の首都リオ

デジャネイロ市からペトロポリス市に立ち寄ったドン・ペドロ1世がこの土地を気に入り、その息子にあたるドン・ペドロ2世が夏の離宮を建設。以来、ブラジルが民主制に移行するまで、王族の避暑地として発展し、王室との関わりが深い都市となった。多くの国の外交団も、当時、リオデジャネイロ市で流行していた黄熱病を避けるべく、ペトロポリス市に拠点を置くなど、外交都市としても機能。

日本との関係では、1897年に初の日本公使館が設置される等、日伯関係において非常に重要な都市である。

●気候

標高 800メートルと高地にあるため、夏は過ごしやすいが、冬は涼しい。年間を通して過ごしやすい気候であり、桜の植生にも適し、ブラジルの春に当たる9月頃に開花する。

3. 市の産業

ペトロポリス市の主な産業は、歴史的な町並みを活かした観光、ビール製造である。ペトロポリス市には、1853年に国内初のビールの工場であるボヘミアが創設される等、ビール製造の歴史は長い。ボヘミアのビールは、2013年にブラジル・ビール祭りで金賞を受賞。

また、2017年にブラジル観光省が発表した観光都市ランキングで1位を獲得。国内外から160万人の観光客が訪れ、ペトロポリスを訪れる観光客数は年々増加している。



市の三大祭りの一つであるドイツ祭り



ボヘミアのビール

4. 姉妹都市提携の意向

ペトロポリス市には、初の日本公使館が設置されたのをはじめ、日本とゆかりのある土地である。日本人・日系人は現在300名しか居住していないが、ペトロポリス市在住の日本人の尽力によって、イタリア祭り、ドイツ祭りと並んで日本祭りが市の3大祭りとして市の公式行事となり、すでに11年目を迎える。毎年多くのペトロポリス市民が日本祭りに足を運んでおり、日本への関心は高い。

日本祭りの他にも、1995年日伯外交関係100周年の機会に、ペトロポリス市に於いて桜の苗木を100本植樹したのをはじめ、2018年の日本人ブラジル移民110周年の機会を捉え

て、新たに桜の苗木 110 本を植樹。桜がペトロポリスのシンボルとなりつつある。



市の三大祭りとなっている日本祭り



1995年に植樹した桜